

## 中山風穴

風穴（ふうけつ）は、周辺地域が一年中涼しく保たれる珍しい地質学的現象です。夏の真っ只中でさえ、表面温度は通常 5℃から 10℃の間にとどまり、4 月から 9 月の間に高山の花が育つ環境を作り出します。このエリアには 6 つのスポットがあり、ハイキングトレイルでつながっています。訪問者は地面から冷たい空気が出ているのを感じることができます。時間が許せば、ルート全体を探索し、下郷の自然の美しさを間近で体験する価値は十分にあります。トレイルはすべての年齢層に適しています。洞窟から湯野上温泉の温泉村や「塔のへつり」などの地元の観光スポットまで徒歩で行くこともできます。中山風穴の鍾乳洞とその周辺は、1964 年に国定自然記念物になりました。

### 古代の起源

中山風穴は、数百万年前、火山爆発により溶岩が地表に押し上げられ、円錐形の鍾乳洞ができたと考えられています。これらの洞窟は、隙間のある岩の多くの層で構成されており、表面からの暖かい空気が入り、そこで冷却されてから、表面に吹き戻されます。

これらの洞窟は、それらの間に隙間がある岩の多くの層で構成されています。地表からの暖かい空気は隙間に入り、岩の上を通過するときに冷やされてから、地表に吹き戻されます。この現象は、高山植物が繁栄するための理想的な環境を作り出します。1955 年に地元の住民がオオタカネバラの標本を植物研究者に見せたときに注目を集めました。植物は通常標高 1500 メートル以上で育ちますが、中山風穴では 550 メートルで育ちます。中山は、日本最大の島である本州で最大のオオタカネバラの巣があり、5 月がおすすめの観覧シーズンです。

### 自然の冷蔵庫

トレイルで最も印象的なスポットの 1 つは、最大の風の洞窟の周りに建てられた体感施設です。この洞窟を誰が最初に発見したかは明らかではありませんが、地元の住民は何世紀にもわたって自然の冷蔵庫としてそれをうまく利用してきました。日本の蒸し暑い夏の間、洞窟は果物、野菜、肉の倉庫として使用され、冷たい空気が食べ物を腐敗から守りました。1920 年代後半から 1940 年代初頭にかけて、近隣の町の進取的な商人が下郷町からパビリオンを借りて、農産物の保管に使用していました。洞窟は養蚕業でも利用されており、気温が低いいため、カイコの卵が孵化するまで保管するのに理想的な環境でした。